

港湾振興便り



2013. 12
第80号

目次

1 ポートエッセイ 「安倍政権、日口交流に強い意欲」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 第40回川崎みなと祭りを開催しました

(川崎市 港湾局 誘致振興課)

- 「東京湾大感謝祭」を開催しました！

(関東地方整備局 港湾空港部 沿岸域管理官付)

- 災害発生時における緊急支援物資の保管等に関する協定締結

(関東地方整備局 港湾空港部 首都圏臨海防災センター)

- 水島港国際コンテナターミナル12m岸壁(耐震)及び6号埠頭供用開始式典を開催しました

(中国地方整備局 宇野港湾事務所)

3 お知らせ

*:

1 ポートエッセイ 「安倍政権、日ロ交流に強い意欲」

～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

*:

12月4日に「第1回日露交流促進官民連絡会議」が首相官邸で開かれ、私も出席した。会議は世耕弘成・内閣官房副長官が主宰し、小松製作所の坂根正弘相談役が代表世話人となっている。会議には外務省や経産省、国交省、農水省など10省庁が顔をそろえ、安倍政権が日露交流の加速に強い意欲を示していることを改めて実感できた。会議の概要を報告する。

会議冒頭、世耕副長官から「今年に入って安倍総理は4回プーチン大統領と会談し、相互の信頼関係は大変に強くなっている。われわれはこの機会に日ロ関係を大きく前進させたい。今回の会議の名称を見てお分かりの通り、経済という言葉を取って使っていない。これは幅広い分野で交流を促進させたい、との思いを反映させたものだ」と挨拶した。

日ロ関係はいま、3つの分野で大きく前進している。1つは首脳同士の信頼関係。これは領土問題の解決を含む日ロ間の平和条約の締結・国交正常化に向けた土台ともなる。

2点目が広い分野での具体交流の進化。3点目がエネルギーを含む安全保障分野だ。

安倍政権では年末に茂木経産相がロシアを訪問。年明けには日ロ次官級会議、3月には日露投資フォーラム、春先の岸田外相の訪ロ、6月にはソチでのG8首脳会合と予定が目白押しだ。プーチン大統領の訪日も期待されている。

このような中、ロシア側の動きも活発だ。11月に新潟で開催された日露エネルギー・環境対話in新潟にはアフアナシエフ・駐日ロシア大使が出席。エネルギーでの日ロ連携の必要性を訴えた。ロシア極東での特区づくりもプーチン大統領の肝煎りで進められている。

以前から対岸交流に取り組んできた新潟市では、「国家戦略特区」にニューフードバレー特区や環日本海ゲートウェイ特区などを提案している。対岸のロシア極東の動きを睨みながら、日本海を挟んだ相互特区の可能性を探っている。交流が加速すれば、港湾にもよい影響が出るのは間違いない。アンテナを張って、日ロ交流の可能性を探り、敏速に動いていきたい。

*:

2 トピック

*:

● 第40回川崎みなと祭りを開催しました

(川崎市 港湾局 誘致振興課)

10月12日(土)、13日(日)の両日、第40回目となる川崎みなと祭りが川崎港東扇島の川崎マリエンおよび東公園会場で開催されました。本年度は、川崎港とベトナム・ダナン港が友好港の提携をしてから20周年となることから、「〈川崎港－ベトナムダナン港友好港提携20周年〉人とモノ、世界をつなぐ みなと川崎」というテーマのもと様々なイベントが催されました。

オープニングセレモニーには、ダナン港よりグエン・チュー港長が駆けつけ、川崎市長より友好港提携20周年を記念した記念品が贈呈されました。また、川崎マリエン会場ではベトナム料理やダナン市観光局などの関連ブース出展や、ベトナム音楽・舞踊のステージなど開催され、雰囲気を盛り上げていました。

そして、東公園会場では、宮城県女川町より提供して頂いた「さんま1000匹」の炭火焼きや、輸入牛肉のバーベキューなどが来場者に振る舞われ、好評を得ていました。

期間中東扇島では「ちくさんフードフェア2013」や「ビーチバレー」BVツアー2013第5戦川崎市杯も同時に開催され、晴天にも恵まれたなか、大勢の人で賑わいました。



会場となった川崎マリエン



川崎市長からダナン港長へ
記念品の贈呈

● 「東京湾大感謝祭」を開催しました！

(関東地方整備局 港湾空港部 沿岸域管理官付)

「東京湾大感謝祭」は、東京湾の恵みを楽しみ東京湾に感謝し、かつての江戸前の海の豊かさを取り戻すため、東京湾再生に向けて官と民が力を合わせて連携・協働することを目標としております。その取組みとして、11月23日(祝)に東京都江東区にあるTIME24にて「東京湾再生官民連携フォーラム」を設立、みんなで力をあわせて「豊穡の海・東京湾」を取り戻すきっかけとして各種イベントを開催しました。これからは、東京湾に関わりのある人々との触れ合いや、東京湾の持つ沢山の魅力との出会いを通して、東京湾再生の目指すべき姿や私たちができることについて、考える機会にしていきたいと考えています。

「東京湾大感謝祭」として、午前中に実施した「東京湾再生官民連携フォーラム」では224名の参加、また午後のトークショーやリレートークでは598名の参加があり、一日を通しては、イベント全体に延べ1200名を超える方々の参加がありました。家族連れやご年配の方など多くの方々にご参加を頂いたことは一般市民からの関心の高さを示しており、イベントは盛況の内に終了し、大変意義のある取組みとなりました。

今回の大感謝祭は、これまで東京湾が歩んできた経済発展一辺倒ではなく、賑わいのある豊饒な東京湾にむけた新たなスタートであり、今後の官民連携した取り組みが期待されています。そのためには「江戸前」というキーワードを前面に出し、多様な団体が連携し行動をすることによって、これまでの東京湾とは決別し自然環境に配慮しながら、民間や一般市民が前面に立った取り組みこそが、今後期待される多様性のある水辺空間になっていくことと思われ、今回の大感謝祭はそのスタートとなる取組みとなりました。



東京湾再生官民連携フォーラム設立総会



くす玉開披(野上国土交通副大臣ほか)



ミス日本 海の日と野上副大臣



「東京湾大感謝祭」のぼりがイベントを際立てる

● 災害発生時における緊急支援物資の保管等に関する協定締結

(関東地方整備局 港湾空港部 首都圏臨海防災センター)

国土交通省関東地方整備局は11月27日、神奈川倉庫協会と「災害発生時における緊急支援物資の保管等に関する協定」を締結しました。

川崎港東扇島地区の東京湾臨海部基幹的広域防災拠点は、首都直下型地震等の大規模災害発生時には、緊急物資の中継基地などとして機能することになります。

発災時には国内各地及び海外から多くの緊急支援物資が海上輸送されてくることが想定されるため、広域防災拠点内の保管・荷捌スペースが不足することが懸念されます。

神奈川倉庫協会との協定締結は、この課題をクリアし、緊急支援物資の良好な保管、適切な荷捌きを可能とし、自治体の広域物資拠点への輸送活動をより円滑に実施することを目的としています。締結式には神奈川倉庫協会小此木歌藏会長、関東地方整備局池上正春副局長などが出席しました。小此木会長は締結式の後「発災の前に、訓練等を通じて協定に基づく業務が円滑に推進できるようにしていかなければならない」と抱負を語りました。

関東地方整備局は首都直下地震等の大規模災害発生時において、速やかに緊急支援物資の輸送活動が実施できるように、今回協定を締結した神奈川倉庫協会や、他に協定を締結している関係機関等と連携して訓練を続けて行きます。



左：池上 関東地方整備局副局長 右：小此木 神奈川倉庫協会会長

- 水島港国際コンテナターミナル12m岸壁（耐震）及び6号埠頭供用開始式典を開催しました。

（中国地方整備局 宇野港湾事務所）

水島港国際コンテナターミナルでは近年の外貿コンテナ等貨物量の増加や就航船舶の大型化への対応のため、当局により整備を進めた耐震強化岸壁である12m岸壁及び岡山県が整備を行った6号埠頭が今般供用開始となったことを記念し、11月10日（日）に供用開始式典を開催しました。

主催者として竹田浩三国土交通省大臣官房審議官が港湾局長の式辞を代読したほか、伊原木隆太岡山県知事、伊東香織倉敷市長が挨拶を行った後、橋本岳衆議院議員、柚木道義衆議院議員、池田道孝衆議院議員、石井正弘参議院議員、谷合正明参議院議員、渡辺英気岡山県議会議長、松浦謙二倉敷市議会議長による来賓祝辞がありました。

この後、式典ではテープカット、くす玉開披を行い、多くの方に供用開始を祝っていただきました。



